

今後の水素供給システム のあり方について

令和4年度

関西水素サプライチェーン構想実現プラットフォーム

ダイアログ（2023.2.27）

課題認識（1）

- u 国の**モビリティ水素官民協議会**において、商用トラック・バスへのFC車導入拡大に向けた議論(R4年9月～)
- u 福島・関東において**FCトラック（300台）の大規模実証開始**
（2023年1月～2029年度末、関西までの幹線輸送も対象）
GI基金事業「スマートモビリティ社会の構築」
物流向け24時間営業水素ステーション整備予定(2024)
- u トヨタは2023年1月より**小型FCトラック市場投入**
- u FC乗用車の普及は頭打ち
国の2020年度目標4万台
⇒ 2021年度時点で全国約8000台（約5分の1）

持続的な水素ステーションに向けて「商用大型車対応」が課題

課題認識（2）

- u ドローン、農業用トラクター、発電機など、**様々な水素モビリティやアプリケーション**の開発
- u 地域の水素供給拠点として、複数のモビリティが使用可能な「**総合水素ステーション**」としての期待（一般社団法人水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）2022.8月政策提言）

多様な需要形態に対応した供給インフラのあり方が課題

商用FCトラック向けの水素S Tの整備ポテンシャルに関する検討

- u エネルギー検討会では、FCVのEVに対する優位性（航続距離、充填時間）を活かすことのできる**中・長距離輸送の商用FCトラック**が、市場での選択肢となり得る2020年代半ばに向けて、**商用FCトラックを想定した関西広域での水素S Tの整備のあり方**について情報収集・検討

【検討手順】

2023-24年度半ば：大阪府・兵庫県で調査・検討

2023-25年度：水素SC構想実現PFダイアログのテーマとして
情報共有、検討（検討は2024-）

【検討参画者】ST事業者、運送事業者・団体、自治体

【調査検討内容】

中・長距離トラックの物流実態に係る情報収集をもとに、
関西広域における**物流FCトラック対応水素STのあり方**（**ステーションの立地や設備整備の考え方、広域での将来のST展開イメージ例など**）についてとりまとめ。

本日のダイアログの内容

① 「FCトラック対応水素ステーションの設置・普及に向けた取り組み」

(日本エア・リキード合同会社)

② 「ENEOSの水素サプライチェーン構築に向けた取り組み」

(ENEOS株式会社)

③ 「小容量水素サプライチェーンと水素利用の未来」

(株式会社ミライト・ワン)

R4年度 大阪府カーボンニュートラル技術開発・実証事業 補助対象事業
「小型水素容器の充填温度制御式多連型充填システムの開発・実証及び
水素マイクロモビリティの利用実証」

新たな取組や方向性について事例を紹介いただき、意見交換

論点

- u **持続的な水素ステーションのための需要量確保**において、**商用大型車対応**をはじめ、どのような工夫が必要か
- u **地域の多様な水素アプリケーション**に対応した**新たな水素供給ビジネス（インフラ・システム）の可能性**は
- u 先行事例における事業展開ノウハウを活用して、**関西において実装・展開していく際の課題**は